

“原木” 椎茸栽培を知る！

椎茸専攻班

I 設定理由

郡上高校では、大きくて肉厚な原木椎茸（115 菌・240 菌）の栽培をしている。そんな郡上高校の原木椎茸を昨年度の活動などを通して、より多くの方に知っていただいた。椎茸を発生させるだけでなく、加工・販売をし、お客様に届くまでを勉強するため、私たち自身が椎茸についての知識を深めていき、郡上高校の原木椎茸がより良いものになるよう環境を改善し、利益向上にもつなげていきたい。

II 実施項目

- 仮伏せ&A4ハウスの環境整備
- 浸水実験
- 販売会



III 結果

1. 仮伏せ&A4ハウスの環境整備

写真1 <仮伏せ>

今年 200 本の原木を購入し菌打ちをした。菌打ちした原木をハウスに仮伏せをした。エアークッションをかけ、菌の活動しやすい温度に保つ。

※仮伏せとは、菌をほだ木に早く活着させるための作業。

これまで A4ハウスは雑草や、原木の老朽化からハウスとして質の低いものになっていた。今年菌打ちした原木 200 本をここで管理するためハウス内に残っていた古い原木を廃棄し環境整備を行った。(写真2)



今 A4ハウスでは 200 本の原木を井桁組にして管理している。(写真3)

写真2 <ハウス整備> 写真3

2. 浸水実験

郡上高校では 115 菌、240 菌の栽培をしている。これらの菌は最低温度 5℃以下を継続させれば、菌に刺激が与えられ椎茸が発生しやすくなる。そこで、この性質を利用し発生時期を早めようと実行した。

「115 菌の原木」「240 菌の原木」「桜の木の原木」を各 5 本浸水し水温を調べた。(写真4)しかし、温度調整が難しく、5℃以下にはならなかった。



また、どの時期にどのくらい沈めるのかをきちんと調べることが出来ていなかったため、この実験からは良いデータを取ることができなかった。 写真4 <浸水実験>

3. 販売会

今年は、スポーツセンター感謝祭、みどりの祭り、実習生産物販売会、三者懇談での販売会を行った。



①スポーツセンター感謝祭

販売数…丸・スライス 36

初めての販売会だったが、接客や呼び込みの経験をつむことができた。

②みどりの祭り

販売目標…丸 50、スライス 50 計 100

販売数…丸 50、スライス 64 計 114
目標以上の結果だった。

③校内販売

三者懇談 販売目標…丸 50 販売数…丸 50

春休み 販売数…丸 50、スライス 15

目標を達成することができた。

④実習生産物販売会

販売目標…生 50、丸 150、スライス 50

特選 25 計：生 50 干 225

販売数…生 50、丸 156、スライス 50

特選 25 計：生 50 干 231

実習生産物販売会 売上

販売品	価格	平成22年	平成23年	平成24年	☆平成25年☆
生椎茸	200 円	14, 300 円	52, 400 円	18, 000 円	10, 000 円
干し椎茸	500 円	81, 500 円	70, 500 円	67, 500 円	78, 000 円
干し椎茸(スライス)	500 円	11, 000 円	14, 000 円	28, 500 円	25, 000 円
干し椎茸(特選)	600 円	—	—	—	15, 000 円
合計		106, 800 円	136, 900 円	114, 000 円	128, 000 円

様々な場所で販売できたため、たくさんの人に郡上高校の原木椎茸を知ってもらい、買っていただくことができた。

販売会では、生椎茸の収穫量が少なく昨年よりも生椎茸の売上が下がった。しかし、干し椎茸の中でも形のいいものを特選として商品の種類を増やしたことにより全体としての売上は上がった。

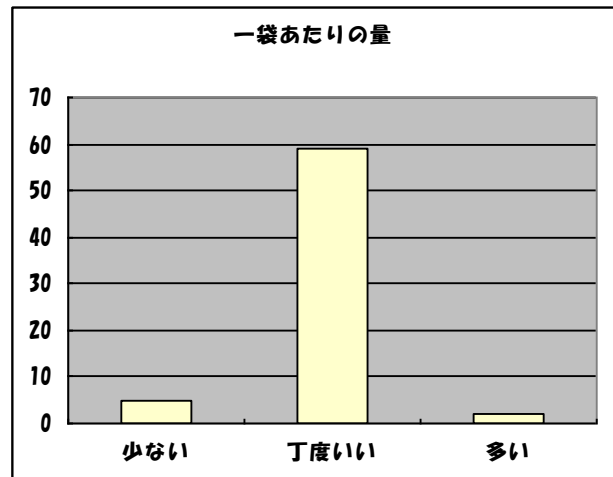
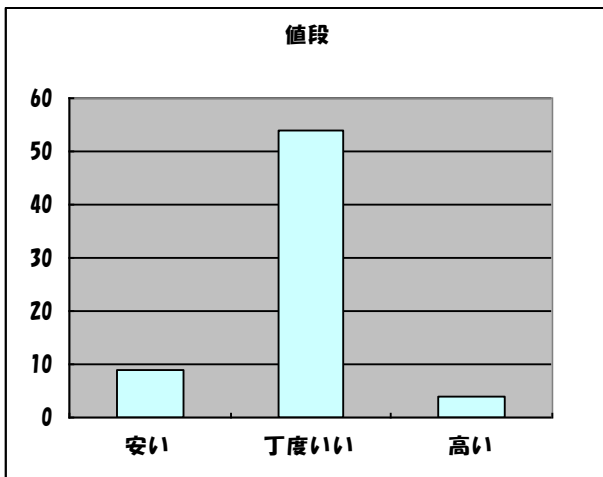
4. 総売上

	干しいたけ	生しいたけ	合計
平成 23 年	328, 500 円	118, 300 円	446, 800 円
平成 24 年	284, 500 円	20, 400 円	304, 900 円
平成 25 年	235, 500 円	10, 000 円	245, 500 円

売上は 59,400 円減少した。販売回数が昨年よりも少なかったことと、椎茸の収穫量が少なかったことが原因だと考えられる。東日本大震災の影響で、原木の入手が困難になっている。(値上げ、供給量の減少)

売上は年々減少しているため、収穫量を増やしたり、お客様の需要に合わせて商品の用意ができるような工夫をしたい。

5. アンケート結果



今年度は干し椎茸の一袋あたりの量や値段についてのアンケートを5月と7月にとった。この質問に対してはどちらも多くの人が丁度いいということだった。

6. 昨年度との比較

- アンケート内容がより具体的になった
回答を丸つけるだけのものにした
質問数を減らし、データが欲しいものだけにした

- いこいの森・A4ハウスの環境整備をした

A4ハウス

ハウス内に古い原木が放置されていた。このハウスに今年菌打ちをしたほだ木を本伏せしたかったため、古い原木をいこいの森に移動させハウス内に砂利を敷いた。砂利を敷くことには、雑草や病害虫を防ぐ、水はけが良くなり作業効率が上がるなどのメリットがある。

いこいの森

古くなったほだ木を置いていた。もう椎茸が収穫できるものがほとんどなかったため廃棄した。

- 収穫量の記録
- ハウス内外の温度調査
- 菌打ち

今年は原木を 200 本購入し菌打ちなどの作業をした。

- 仮伏せ

昨年は原木を購入していないため菌打ちや仮伏せなどの作業をしていない。

7. 今年度の成果

- いこいの森・A4ハウスを有効活用するため、環境整備した。
- 販売会の時に多くの人を対象にアンケートをとった。
- 月ごとの収穫量を調査した。
- みどりの祭りでは昨年の倍以上を売り上げることができた。(開催場所が良かったこともある)

8. 課題

- 仮伏せの期間が今年度は長すぎたため、来年度は5月頃に本伏せをできるとよい。
- A4ハウスの散水機能がないため、チューブの付け替えをしてほしい。(業者)
- 12月の販売会に生椎茸をたくさん売りたいが、今ある菌種では収穫時期が販売会とずれる。そのため栽培する菌種を変えることを考えたほうがいい。(327菌など)
- 散水は天気と会話しながらやる。
- 浸水は菌に合った時期と温度条件がそろわないといけない。その条件を調べる。

IV まとめ

今年度は栽培や販売だけの活動ではなく、これからのことを考え仮伏せやA4ハウスの環境整備や浸水実験を行い、質のいい原木椎茸を販売するために活動してきた。さらに今年度は商品の種類を増やし(特選椎茸)、販売会では椎茸を完売することができた。

今後の活動として、A4ハウスの散水チューブ取り付けと浸水実験を行ってほしい。

原木の入手が困難なため、管理本数が年々減少している。原木の管理数を増やすのは難しいが、一本あたりの収穫量は工夫して増やせるはず。その研究を継続してやる必要がある。